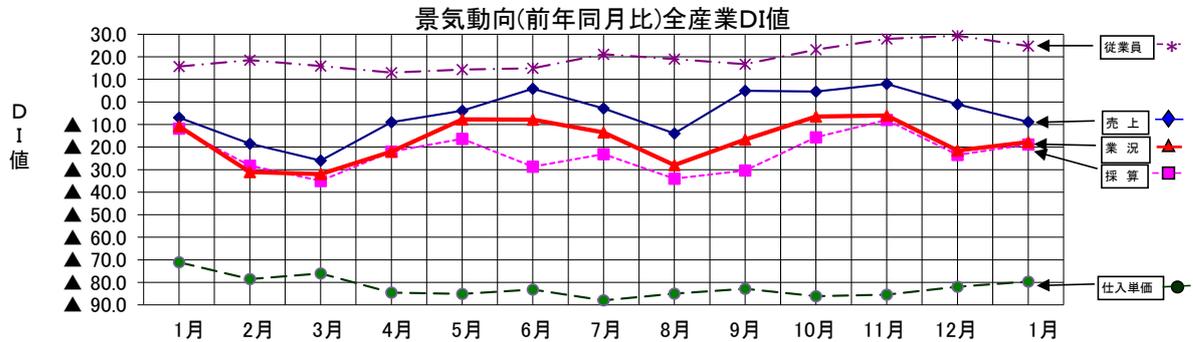


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 1月分

【1月の概要】 「売上」「採算」「業況」の先行き見通しは改善するも 価格転嫁問題、新型コロナ第8波等依然として課題多い

業況判断を示すDI値は、「売上」は2ヵ月連続で悪化したが、「採算」「業況」「仕入」で小幅ながら改善。先行きDIは、「売上」「採算」「業況」で2ケタ台の改善を示し、明るい兆しも見え始めた。

一方で、コメントからは、一部で業績回復の見方はあるものの、価格転嫁の問題、新型コロナ第8波の影響、深刻な人手不足、大雪の影響等、マイナス要素のコメントも多い。依然として直面する課題は多く、天候にも左右される時期に差し掛かっており、さらに慎重な経営判断が求められる。



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

	2022年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年
	1月												1月
売上	▲ 6.9	▲ 18.5	▲ 26.0	▲ 9.0	▲ 3.9	5.9	▲ 2.9	▲ 14.0	4.9	4.6	8.0	▲ 1.0	▲ 8.9
採算	▲ 11.8	▲ 28.2	▲ 35.0	▲ 22.0	▲ 16.4	▲ 28.7	▲ 23.1	▲ 34.0	▲ 30.4	▲ 15.7	▲ 8.0	▲ 23.5	▲ 18.8
業況	▲ 10.8	▲ 31.1	▲ 32.0	▲ 22.0	▲ 7.7	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 28.0	▲ 16.7	▲ 6.5	▲ 6.0	▲ 21.6	▲ 17.8
仕入単価	▲ 71.1	▲ 78.6	▲ 76.0	▲ 84.5	▲ 85.1	▲ 83.2	▲ 88.0	▲ 85.0	▲ 82.8	▲ 86.1	▲ 85.5	▲ 81.9	▲ 79.7
従業員	15.7	18.5	16.0	13.0	14.4	14.9	21.2	19.0	16.7	23.2	28.0	29.4	24.8

- ・マイナス幅が減少したDI値：採算4.7ポイント、業況3.8ポイント、仕入単価2.2ポイント
- ・プラス幅が減少したDI値：従業員▲4.6ポイント（需給均衡局面へ）
- ・マイナス幅が増加したDI値：売上▲7.9ポイント

向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
11月	▲ 3.0	▲ 17.0	▲ 6.0	▲ 56.0	32.0
12月	▲ 11.8	▲ 28.4	▲ 24.5	▲ 57.8	33.3
1月	7.9	▲ 12.9	▲ 12.9	▲ 60.4	29.7

- ・見通しが改善したDI値：売上19.7ポイント、採算15.5ポイント、業況11.6ポイント、従業員▲3.6ポイント（需給均衡局面へ）
- ・見通しが悪化したDI値：、仕入単価▲2.6ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	電機	発注先の業績も徐々に回復しており、4月以降は工事の受注も増えてくる予想。
	リフォーム	従業員の中で第8波の家庭内感染者が続出、業務に影響が出てきた。
製造業	印刷	仕入コスト上昇の影響は避けられない。販売価格への転嫁をいかに納得いただけるかが鍵。
卸売業	青果	年末年始の最需要期を過ぎ、消費者の購買行動も鈍化。今後の天候次第で更なる低迷も懸念される。
	建材	降雪のため工事施工ができず、商いは閑散としている。
小売業	眼鏡販売	大雪やコロナ第8波の影響で売上減少。
	印鑑・印刷	何とも判断が難しい年明けとなった。好転を希望するが、今月の状況次第だと思う。
サービス業	レストラン	仕入価格上昇に伴う価格転嫁の問題と、何よりも人手不足が解消されないと規模拡大は難しい。
	タクシー	政府が賃金の見直しを進めようとしているが、中小企業には難しいものがある。
	運輸	昨年11月以降、第8波による感染により出勤できない従業員が急増し、人手不足感がさらに強まっている。